

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームたんぽぽ榊館	評価実施年月日	2009年8月25日～2009年9月20日
評価実施構成員氏名	佐藤 剛 小木 奈美恵 中村 優子 熊木 孝人 小玉 麻衣子 佐藤 みなこ 小倉 由希 川越 千華		
記録者氏名	佐藤 剛	記録年月日	2009年10月11日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input checked="" type="checkbox"/> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>住み慣れた地域と家族とのつながりを大事にできるよう理念に謳われています。</p>		
<input checked="" type="checkbox"/> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>介護理念は玄関の目につきやすい場所に掲示されており、毎月職場内研修を実施しており、研修内で理念に向けての実践を学んでいます。</p>		
<input checked="" type="checkbox"/> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>町内会に参加しており、運営推進会議にも町内会の人達を招き事業所とのつながりをもつようしています。家族とのつながりを持っていただけるよう行事などを通じて家族との時間を大切にしています。</p>		
2. 地域との支えあい			
<input checked="" type="checkbox"/> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>事業所は道路に面しており、色々な人が事業所の前を通ることから職員は笑顔で通りの人達に挨拶をするようしています。近隣の人達とは普段から会話もあり日常にお付き合いさせていただいています。</p>		
<input checked="" type="checkbox"/> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>事業所は町内会に参加し、参加できる行事は参加しています。また地域の行事などには積極的に参加し、事業所の行事には地域の人達を招いています。</p>		
<input type="checkbox"/> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業所の立ち上げ時に町内会婦人部の会合に招待され、グループホームとはどういう施設なのかを説明させて頂いたときに、認知症とはどういうものをお話しさせて頂きました。</p>	○	<p>今後地域の中で住む認知症高齢者を介護する人達に向けて、回覧板などを使い認知症についての情報などを提供して行きたいと計画しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員会議で職員には外部評価がどういふのかを説明し、協力してもらっています。評価後は職員会議や日常的に評価を生かした改善に取り組みたい。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議では町内会、家族代表、市役所介護保険課の人達に参加していただき、定期的にホームでの取り組みを報告させていただいています。その中で出た意見などは運営に反映させて頂いています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市の担当者とは事務的な話などで会話することが多く、その都度情報を交換し合い指導を頂いています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>施設内研修会で権利擁護などの勉強はしていますが、全ての制度を把握している訳ではない。</p>	○	今後の施設内研修会などで、詳しく学んで行きたいと思います。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>施設内研修会で虐待防止について勉強しており、虐待を防止するよう努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入所時や入所申し込み時に、重要事項説明と家族からの質問や不安な事、支援の方向などを話し合っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの不満は日常的に職員へ訴えが 있습니다。ご家族は担当職員又は管理者に不満などを言って頂いています。直接いえないご家族に対しては苦情受付ポストを設置し、また外部の苦情受付機関をお知らせしてあります。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月ご家族には「たんぼぼ通信」として事業所内であった行事や出来事をお知らせし、この利用者に対しては担当職員から、生活状況報告書を送らせて頂いています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの苦情は常に受け付けており、苦情受付ポストの設置や公共機関への苦情受付窓口を入居時にお知らせしています。苦情や意見があった場合には速やかにミーティングなどで話し合い、ケアに反映させて居ます。家族からの要望などは、連絡用ノートに記録し、全スタッフが周知できるように努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員会議で全職員の意見を聞ける場を設けています。意見はその場で話し合われ運営に反映されます。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務時間は基本的に固定ですが、利用者からの要望などがあった場合は、勤務時間の変更や職員の配置を増やすなど、柔軟に対応できます。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	事業所内で職員を移動する時は、利用者情報を含め引継ぎを十分行い、利用者混乱を与えないよう最善をつくしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員の能力に対して外部の研修に積極的に参加しています。毎月施設内で職員が企画した研修会を行っています。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>グループホーム協議会に参加し地域のホームと情報交換をしている。お付き合いさせていただいているグループホームと交流研修会を開き、情報交換やサービスの質の向上に役立てています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>管理者は職員に対して日頃から仕事に対するストレスを溜めないように話しを聞くようにしています。ストレスのない職場を作るように努力をしています。</p>	○	職員にストレスが溜まることもあり、管理者はストレス発散の機会やストレスの軽減になることを、もっと多くする必要があります。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者は管理者より職員の能力などの報告を常に受けており、能力に応じて待遇などを改善するなど向上心をもてる様に務めている。管理者は職員の働きに対して常に感謝の気持ちをもって接しています。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前にはケアマネを中心として事前面談をし利用者さんのニーズを読み取るようにしています。入居予定者さんに不安なことがある場合、十分話しを聞きサービス計画を立てるようにしています。職員は個々のお部屋を訪問し色々なお話を聞かせていただいています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前にはご家族の不安や困ったことなどを聞く機会を設け、安心して利用して頂けるように務めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期のサービス計画はご家族や本人からの不安や困っていることを聞き取り、暫定的にたてられています。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に事前面談をしていますが、入居前に見学などをして頂けるようにご家族に案内させていただいています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常的に利用者さんたちは好きなことをしており、スタッフと人間同士の付き合いをさせて頂いています。出来ることは自分でして頂ける環境があり、職員が利用者の行動を制限することを極力少なくするよう努めています。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常的に来て頂いているご家族とは、利用者さんの状態を一緒に見て一緒にどうすれば良いのかを職員と考えています。普段来られないご家族に対しては来たときにご家族の意向などを聞き取り、サービス計画に取り入れています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族と利用者さんとの今までの関係を継続できるように職員は務めています。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今まで住んでいた場所に遊びに行くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。施設にも遊びに来ていただけるよう声をかけるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性について情報を交換し、全ての職員が共有できるようにしている。また利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	死亡退去された利用者さんしかいません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との普段からの会話の中で意向や要望などを汲み取るようにしています。常に利用者さんが主体の物の考え方ができるように務めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人及びご家族から生活歴などを聞き取りしています。入居後も普段の会話から過去の暮らし方などを聞き取り職員間で情報を共有しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者さんには担当職員がおり、アセスメントや情報交換で総合的に判断し、ケアマネを中心にサービス計画に反映できるようにしてます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者が日常生活の問題点などを出し、ご家族や利用者さん本人の意向を聞きながらケアマネを中心としてケース会議を行い、職員会議で全職員の意見などを取り入れてサービス計画を作っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画見直し前でもサービス計画を実行してみても不適切だと思われるサービスは中止をし、サービス計画にない事でも、取り入れたい事があればケアマネを中心に検討し見直しましてもサービス内容を変更しています。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者さんの日々の様子は介護支援経過記録とアセスメントシートに記録されており、業務上の気づきや工夫などは連絡ノートに記録して、職員間で情報を共有しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者さんやご家族の要望などがあれば、可能な限り何でも対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	施設行事として行われる「縁日」「焼肉会」などには地域のボランティアなどの参加を呼びかけています。運営推進会議を通じて地域と連動した避難訓練などをお願いしています。	○	地域と連動した避難訓練は実現しておらず、今後町内会などと話しを継続していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	社会福祉協議会と連携をとり、介護ベット・車椅子の借用をしている。又老人福祉大会や介護予防体操に参加している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターで2ヶ月に一度開催される支援専門員等会議に参加するようになり、周辺情報や支援に関する情報交換を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	入所前から連携医療機関に通院していた利用者さんが多く、継続して主治医に看て頂いています。病院に受診に行けない、または往診を希望する利用者さんには往診して頂ける医師に来ていただいています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	連携医療機関の精神化の医師や主治医と連携しながら、治療や投薬調節などを行っています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤職員に準看護師がいるため、日常的な健康管理などをして頂いています。また訪問看護ステーションと週に1回の契約をおこなっており、訪問看護師にアドバイスなどを受けながら健康管理を行っています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医師、看護師などに相談し、病状などの情報を交換しながら早期退院できるように、務めています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現時点でご家族とご本人の終末期に対する希望などをお聞きするよていです。	○	10月または11月中に入居者さんのご家族と個別に終末期に対する希望などをお聞きし、覚え書きという形で意思確認をします。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後ご家族との話し合いで施設での終末期を希望されるご家族がある場合は、訪問医と相談の上、ユニットとして出来ることを話し合いたいと思います。また他ユニットで終末を看取った事例があるので参考にさせて頂き、準備をしていきたい。	○	職員に向けて早期に終末期ケアに対するディスカッションなどを開きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居前にご家族やご本人、前担当ケアマネから生活情報などを聞きとりケアの参考にさせて頂いています。またご家族には使い馴染んだ物をそのまま施設で使っただけをお願いし、可能な限り慣れ親しんだ環境で過ごしていただけるよう務めています。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉がけなどはスタッフとの関係を考慮し、尊厳をもって話しかけるように努めています。また個人記録などは極力表に出さないよう、表紙などをつけて中が部外者にみられないよう配慮しています。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は利用者の自己決定を尊重するように努めており、生活のさまざまな場面で利用者が選択できるように支援しています。</p>	○	利用者がやりたいと思うことを、もっと引き出していく。
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>施設は大まかなスケジュールしか決めておらず、利用者のペースに合わせて日常生活を送っています。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出時や行事など、人に合う場面が想定される場合は普段着ではなくよそ行きの服を勧めています。自分で服が選べない方は職員と一緒に選んでいます。また理美容は本人の馴染みの店に行ける様に支援しています。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>大まかなメニューは決まっていますが、新聞広告などを利用者として利用者が食べたいものがあれば、作るようにしています。また食事の支度や後片付けは職員と利用者で行っています。食べ物の好き嫌いなどある場合は、別メニューなどで提供させていただいています。硬いものが食べられない利用者には刻みを入れたり、利用者に合わせて食事を提供しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師から酒・タバコが禁止されていない限り、本人が望めばお酒など提供するように準備はしていますが、喫煙される利用者はありません。日常的に好きなものを選んで頂くという事で、飲み物など複数提供して好きなものを選んでいただいています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	現在利用者で紙オムツを使用している方はおらず、尿取パットを使用して頂いています。排泄は自立されており、一部介助するのみです。夜間歩行など不安な利用者に関しては本人が望んでいる場合ポータブルトイレを設置しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は決めておらず好きな時間にお風呂に入れます。	○	お風呂が嫌いな利用者もいるので、お風呂を楽しめるように支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の生活の中で体を動かすように勧め、夜間良く寝られるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合わせ、出来ることは自発的にやっていただけるように食事の支度や片付けなど、さりげない支援に努めています。また気晴らしのために外出を多く取り入れています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者は小額でも自分でお金をもっており、外出時に自分で買い物をすることもありえます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望があれば、外出はいつでも可能であり、職員との買い物なども積極的に利用者とは出かけるようにしています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者が望めば、身体的に無理な距離でない限り出かけています。普段からご家族とも外出をする利用者さんもいます。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使え、使い方が分からなければ職員が電話をかけることも可能です。手紙や贈り物などが届いた場合は、御礼の電話をかける様に勧めています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人などが訪問された時には、お茶などを出して歓迎しています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員研修会で身体拘束について勉強会を開催しており、拘束のないケアに取り組んでいます。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中利用者は玄関から自由に入出入りすることができ、鍵をかけていません。鍵をかける事によって利用者の行動を制限することを職員は正しく理解しています。ただし夜間は防犯と職員が1名の為施錠しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者の居場所を確認しながら、さりげない見守りを行っています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者が日常的に使い、職員が常に目に付く場所に置いてある洗剤などは撤去していません。ただし、職員の目の届かない場所に置いてある洗剤などの危険物は、手の届かない場所に置いてあります。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットや事故報告を使い、危険性のある事柄に対しては対策をするようにしています。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故や急変の時には緊急連絡網を作成しており、それに則り職員の配置をします。	○	初期対応や応急処置などの知識や経験のない職員もいるので、今後施設内研修などで学んでいきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	半年に1度消防署と協力して避難訓練を行っています。また運営推進会議で町内会に避難訓練の協力をお願いしています。	○	町内会に協力して頂く避難訓練はまだ実施されていません。運営推進会議を通じて今後も協力をお願いしていきます。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	日頃からご家族には利用者の生活状況や身体状況をお話させて頂いています。また毎月利用者の生活状況をお知らせするお手紙を書いて送らせて頂いています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化などは医療ノートに記録され、連絡ノートにも書かれるので職員が全員把握できるようになっています。毎日バイタルチェックをして早期の体調不良などの発見に努めています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者が服薬している薬は、薬剤情報ファイルにまとめられており、職員がいつでも見れるようにしています。投薬などに変更があった場合は医療ノートに書かれるため、職員がいつでも確認できるようになっています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	自然排便を促すため、日常的に体を動かすように勧めています。普段の食事野菜などを摂取していただけるように工夫されています。また下剤が処方されている利用者は排便が数日ない場合には下剤を使用しています。	○	便秘が及ぼす影響など、勉強会などを開きたいと思います。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自主的に口腔ケアをしていただけるように、日常的に声かけをしています。歯科医も往診に来ていただいているので、口腔ケアの指導などもして頂いています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	メニューはあらかじめ決められており、栄養に配慮されています。水分量は記録されていて、不足しているようならば好きな飲み物などを提供して水分補給をして頂いています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は毎年行われており、普段から外出からの帰宅時に手洗いうがいなどをして頂いています。また来客にも手洗いうがいなどをお願いしています。毎日多く手に触れる場所を消毒しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	賞味期限が切れているものは破棄するようにしており、毎日新鮮な物を提供するようになっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	施設前を通る地域の人達にも楽しんで頂けるように玄関前に小さな花畑を作っています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所を中心に居室があるので、食事の準備など生活観を感じられると思います。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の両端に椅子とベンチが置いてあり、人目から離れて利用者同志話しをされています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使い慣れた物を部屋において頂けるようお願いし、利用者の使いやすいうようにして頂いています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に温度計湿度計が付いており、快適に過ごしていただけるよう利用者ごとに調節しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ、浴室などには手すりが付いており、安全に歩行できるように配慮されています。また廊下と居室はクッションフロアになっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の出来ることと出来ないことを見極め、一人ひとりに合った関わりを持って利用者を支援しています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏のお宅の庭を半分貸して頂き、畑を作っています。利用者さんが主体になり色々な野菜づくり等をして頂いています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- 行事ごとに地域の人達を呼び一緒に楽しんでいます。
- 地域の行事などに積極的に参加しています。
- フットワークが軽く、利用者が行きたいと思った所に行きます(丸山動物園、富良野ラベンダー、札幌市内へ買い物、石狩鮭祭りなど)